

### 第3回（仮称）「漱石山房」記念館整備検討会議事 要旨

■ 日時 2012年10月20日（土） 13時30分至18時00分

■ 場所 小平市平櫛田中彫刻美術館、大田区立尾崎士郎記念館、大田区立山王草堂記念館

#### ■ 出席者

委員 中島座長、中川副座長、石崎委員、半田委員、山岸委員、牧村委員、  
伊藤（幸）委員、沖山委員、中村委員、田中委員、夏山委員、貝田委員、  
清水委員、桐生委員、江木委員、伊藤（聡）委員、江田委員、  
小林（浩）委員、小林（智）委員、松林委員、三又委員、百足山委員、  
八重樫委員、吉川委員、川嶋委員

事務局等 橋本文化観光課長、石塚文化資源係長、北見主任主事（学芸員）、小泉主任主事、  
株式会社丹青社

■ 欠席者 志村委員

#### ■ 内容（バス車中及び見学先施設）

##### 1 開会

中島座長より開会を宣言

##### 2 前回のふりかえりと本日の予定

(1) 中島座長より、前回の内容のふりかえりと本日の施設見学の目的について確認があった。

(2) 事務局より、以下の説明等を行った。

① 施設見学の行程についてのご案内

② 前回資料のうち1点差替えのお願い

③ 前回回答を保留した車いす専用の駐車場に関するご質問について、以下のように回答  
・ 想定される建物規模においては、法令上の義務はないが、バリアフリー関連の法令の趣旨や、区としてバリアフリーを推進していくという観点から、1つ以上車いす専用の駐車場を設けていく必要があると判断している。

##### 3 見学施設の解説等①

事務局より、以下について説明及び解説を行った。

###### (1) 見学施設の選択理由

前回、類似事例の紹介をした際に便宜的にA、B、Cの類型に分けたが、それぞれから半日で回れる範囲にある施設をひとつずつ選択した。

Aが「展示および管理棟」＋「旧宅等の歴史的建造物」という形式で、小平市平櫛田中彫刻美術館がこれに相当する。Bは、歴史的建造物である旧宅自体の内部に展示等をして展開しているタイプで、尾崎士郎記念館がこれに相当する。Cは、記念施設等の中に書斎や旧宅等を再現しているタイプで、山王草堂記念館がこれに相当する。

###### (2) A、B、Cに該当する他の施設の紹介

A：吉川英治記念館（青梅市）、岡本太郎記念館（港区）

B：山本有三記念館（三鷹市）、横山大観記念館（台東区）、子規庵（台東区）、向井潤吉アトリエ館（世田谷区）、旧白洲邸武相荘（町田市）

C：牧野記念庭園（練馬区）、池波正太郎記念文庫（台東区）

その他：森鷗外記念館（文京区）、一葉記念館（台東区）

### (3)小平市平櫛田中彫刻美術館についての事前説明

①平櫛田中の人物紹介

②小平市平櫛田中彫刻美術館の施設的特色

③美術館の持つ諸施設の紹介

## 4 小平市平櫛田中彫刻美術館の見学

藤井学芸員から解説をいただいた後、記念館、展示館を見学した。

## 5 見学施設の解説等②

(1)小平市平櫛田中彫刻美術館のふりかえり

(2)大田区立山王草堂記念館の説明

①徳富蘇峰の人物紹介

②山王草堂記念館の施設的特色

③記念館の持つ機能の紹介

## 6 大田区立尾崎士郎記念館の見学

記念館を外部から見学した後、事務局より解説を行った。

①尾崎士郎の人物紹介

②尾崎士郎記念館の施設的特色

## 7 大田区立山王草堂記念館の見学

記念館を見学した後、公益財団法人大田区文化振興協会河西氏より解説をいただいた。

## 8 見学後の感想・意見（要旨）

- ・ 漱石山房ができることに非常に期待しているが、建物自体を復元してもあまり意味はなくて、皆さんがいつも漱石のことが勉強できる場所や、また漱石に関心を持って全国から集まれるような様々な企画・運営のほうに力を入れてもらえれば一番いいのではないかと思います。
- ・ 今日彫刻家と文士二人の記念館を見た。漱石も文士ということだが、できれば目の見えない方にも楽しんでいただけるような展示や、触って分かるようなものがあればいいのではないかと思います。
- ・ 私たちの町会に漱石山房ができるということでとても期待していて、皆さんのお声を聞きながら、どのようなものができるのか、私も想像したりしている。今日の内容を見て、建物も必要かもしれないが、そればかりでなく運営の仕方、くり返し行きたい、知れた

いというような魅力のある漱石山房ができるといいと思っている。

- 今日3カ所を見て大変勉強になった。一番感じたのは、そこに行くまでの場所の案内である。山王草堂はとても工夫されているが、漱石山房の場合にも、どのようにあの場所にアクセスしてもらうかということについては、最大限の配慮をしたほうがいだろう。  
もう一つは、徳富蘇峰も、尾崎士郎も有名だが、漱石はなんとといっても、日本で読んだことがない人がいないほどの国民作家で、それだけ有名だということ。まさに国民作家の最高峰であるところをどのようにアピールできるかということを考えてらいいと感じた。
- 今日3館を見て思ったのは、漱石山房の場合、あまりオリジナルなものがないということ。例えば先ほど見た山王草堂記念館は、すべてオリジナルで、建物自体を保存するというかたちでうまくできているが、漱石の場合はどうなるのかと思いながら見ていた。  
山房を復元することは確かだが、それを山王草堂のようなかたちで建物内部にどのように復元できるか、どういう工夫があるかというのをじっくり考えていかなければいけない。  
それから利用のしやすさである。漱石山房の場合は、おそらくたくさんの方が利用されるので、利用のしやすさと、一度来たらもう一度来てみたいと何度も利用してもらえるような工夫を考えていかなければいけないということが大きい。
- 近隣に住んでいることから言うと、小平市平櫛田中彫刻美術館のような日本庭園があると、居住環境との親和性という意味では非常にありがたいと思った。  
一方、尾崎士郎記念館は、新宿区という土地柄も考えると、安全上少し難しいのではないかという気がする。  
山王草堂記念館は、非常に公園と施設が一体化していたが、今回の記念館の場合、皆さんが危惧されているように展示物が少ないということからすると、ああいう展示の仕方、中に1回引き入れてというやり方が成立するのだろうかという思いでいる。
- 今日は、3カ所それぞれに特徴があって非常に参考になった。漱石山房においては、いろいろな方が見学されるので、例えば観光バスで来られた場合に対応できるような場所も確保してもらいたい。区営住宅の再編整備にあたっては、そういうものを取り入れていただいたらよいと思っている。  
それからもう一つ。地域の歩いている方に聞いたところ、非常に先ほどのところもいろいろな方が来られて迷惑なのではないのかと聞いたら、2か所とも誇りを持っていますとおっしゃっていた。それを聞いてうれしく感じた。
- 先月町内会の旅行で、明治村に行き、そこで夏目漱石と森鷗外が間借りした部屋を見てきた。今日はあわせて3つ見てきたわけだが、それぞれ特徴がある。これから話を進めてなんらかの施設ができると思うが、現在の漱石公園の場所に、今日のようなバスで団体が来た場合に、前面の道路の幅も狭いので、どういう対応ができるのか。平櫛田中彫刻美術館は、近くに玉川上水が流れていて、歩くのに良い雰囲気だと思うが、漱石山房の場合はどうなるのか気になった。

- ・ 尾崎士郎と尾崎一雄の区別がずっとつかなかったが、今日初めて相撲の好きな『人生劇場』の人が尾崎士郎だということで、やっとこれで間違えない。つまり、現地に行くと本を読むのとはまた違う、非常に強い印象を受けるということ。

漱石山房ができることによって、誰もが現場を見る喜びを得られたらいいと思う。

- ・ 整備する敷地もかなりの広さになるようなので、近代的な公園ではなくて、漱石が生きた時代を表すようなものが再現できたらいいのではないかと思った。

- ・ 山王草堂記念館を管理されている方に話を伺ったところ、来館者が年間 5,000 人前後ということだった。小平市平櫛田中彫刻美術館のほうは年間約 9,000 人ということで、かなりの差があると感じた。今日見た中でも平櫛田中美術館が一番にぎわっているように見えた。やはりああいう大型の建物がそのままの状態で見られるというのは、非常に見応えがあるものだし、彫刻という目に見える見応えのある素晴らしい作品があるというのは、呼び物としては非常に大きいと思った。

尾崎士郎記念館の建物も、かつての姿が極力再現されているとはいえ、やはり新築というのは、それほどの感動はもたらさないと考えた。漱石の場合も、漱石自身の知名度は、非常に素晴らしいものがあるが、おそらく展示をするものは、書簡などが中心となると思う。建物も新築になるので、一般のお客さんが来館した場合の呼び物になるものが何かあるかと言うと、いろいろと工夫していかなくてはならないと思った。

- ・ 前回漱石公園を見学して、実はがっかりしていたので、今回 3カ所を見るにあたって、ここにこういう建物ができたらどうなのだろうということ、土地面積とか、建物の広さとか、そんなことを気にしながら見学していた。

もちろん漱石山房という建物がどんな形であれできるということで、それも大きな売りだと思うが、多くの人を引き付けるためには、何か仕掛けをつくっていく必要がある。新宿区ではほとんど資料を持っていないということだったので、レプリカばかりでは引き付ける魅力に欠けるのではないかと思う。一般の人やもちろん研究者の方にも多く来ていただくためには、何かそういった仕掛けが必要ではないかなと感じた。

- ・ あの敷地に、公園部分も残すことを前提とすると、別に漱石山房を建てるよりは、記念館の中にベランダ式回廊とか、客間や書斎をうまく組み込んで建てたほうがいいのかという感じを受けた。見学した 3カ所が、それぞれ公園だったり、庭がきれいだったりする中で、漱石山房はそういうものには少し欠けてしまうのかなと思っている。

それで、地域の中で小説の世界にいざなうような工夫をしたらいいのではないか。近くに漱石の小説に出てくるところが何か所かあるので、そういうところにうまくいざなうようなかたちをとったらどうかと思う。

それから、子どもたちも喜んで出入りできるように、学校の見学で来ても楽しめるようなものも工夫したらどうかと思った。

- ・ 3カ所を見学して、やはり平櫛田中彫刻美術館のところは、彫刻という見応えのあるものがあつたけれど、漱石山房は資料的なものがとても少ないので、もし入場料が発生した

ときに皆さんがそれに応えて来てくださるかとても心配。子どもたちも参加できるようなところは、有料ではなくて無料で参加できるようなところも併設してもらいたいと思っている。また、漱石にちなんだ紙芝居をしたり、たくさんの方が参加できるような朗読会などのイベントもぜひ必要ではないか。そうしないと資料がなくて、ただただ復元だけではなかなか皆さんの心を動かすような場面ができないと思う。

- 3館ともいろいろ学ぶべきことが多くて、どのようなまとめ方をしているのか難しいけれども、例えば平櫛田中彫刻美術館は、上野の朝倉彫塑館のイメージが非常に強くて、思い入れ深いところがあったし、尾崎士郎記念館も維持管理の問題でいろいろ工夫されていた。山王草堂記念館は、非常にオリジナルの資料が多いということで、見せ場をつくっているが、今後、漱石山房においては、オリジナルのものが少ない中で、新しい物を建てるにしても古さを出すというか、そういう工夫が必要なのかなと思っている。例えば本にしても、復刻の技術があるので、そういうものを皆さんに見せていくということもあると思う。あと動線の問題もある。やはりスリッパに履き替えて歩くよりは、そのまま入っていただいて、建物の外側から内部を見るという方法がよいのでは。熊本等の例を追い掛けるというよりは、最晩年の時代の作品を中心にした取り組み方も1つあると思う。

- 3館を見て、最初の平櫛田中彫刻美術館は、もともとあった住居が特徴あるユニークな建物で、そこで魅力の大部分を出せているのかなと思った。尾崎士郎記念館は、作家の雰囲気は味わえるが、いかんせん「外からだよね」というところがあり、徳富蘇峰の山王草堂記念館は、オリジナルのものがいろいろあるということで、その資料の力で人を引き付けるのかなという感じを受けた。

先ほどから皆さんがおっしゃっているように、今回の漱石山房の場合は、資料が少ないということと、そして漱石山房というのは、人が集まったところということが一番の特徴だと思うので、その特長を生かしたかたちの物をつくるのがよいのではないかなと思う。今まで建てられた記念館・文学館の、「展示物があり、それを見ていただく」という概念と違うものをつくらないと、そんなに人は集まらないかなという気がしている。

新宿の町中にあるということも考えると、例えば漱石が好きな人たちが集まるとか、漱石を研究している人が集まるとか、漱石について子どもでも大人でもいいが、人を集めて何かができる場所になればいいのではないかなと思う。資料に頼るよりは、その場所が漱石情報の発信地みたいなイメージで、例えばイベントの計画や、漱石山房から神楽坂にかけての界隈は、漱石の時代の地名などいろいろなものが残っている場所なので、そこから文学の世界に誘導していくかたちのものを考えていったらよいのではないかな。

また、漱石山房の書斎を復元するのでも、ある程度、人がそこに入っていられるような感じにしたほうが、親しみを持ってもらえるのではないかなと思う。

- 今日は、大変楽しみにしていて、非常に興味深く見学した。最初に行った小平市平櫛田中彫刻美術館は、たくさん人がいたので、人の流れや動きなどを見ていたが、中2階のところにソファがあったり、ちょっとお水を飲むところがあったり、高齢者にも落ち着いてゆっくり見られる気配りや工夫が感じられた。また、ちょうどいい大きさのモニターで、人物を紹介するビデオをやっている、非常に興味深かった。ただ歩いて回るというよりは、

そういうものを見に行きたいという方も多いと思うので、そこで座ってビデオなどを見られるのは非常によかった。

尾崎士郎記念館は、非常にこぢんまりとしていたが、建物がしっかりしていて周りの木々が非常にきれいに剪定されていたので、歩いていて気持ちがよく、そういうことが重要かなと思った。庭のレイアウトなども少しの気遣いで、気持ちがいいものになるので、もう一度あそこに行きたいとか、遠足で行ってみようかという気持ちになるような設計でつくってあげたらと思う。

若い人からお年寄りまでが漱石記念館に足を運ぶために、これから工夫をしていくのだが、できたら新宿区の名所として社会科見学のコースになるとか、新宿区の子どもたちは、必ずそこに1回は遠足で行くとか、夏休みの読書感想文に困ったら夏目漱石記念館に行くと、必ず漱石の作品に触れることができ、感想文も早く書くことができるというような、親御さんにしても助かる場所になるような工夫もあると非常にいいかと思う。

- ・ 楽しい半日だった。皆さんがおっしゃったことをなるほどと思いながら聞いていた。本日見学した3館とも周りに緑が多く、特に小平市平櫛田中彫刻美術館では、玉川上水をもう一度見たいなと思った。そのためにまた来るかもしれないという、そういった要素が早稲田のあたりでは何になるのかなと考えた。その辺のアプローチが1つ考えることなのかなと思う。新宿区はいろいろな文士がいるので、それらのネットワークの1つの集積地・中心地になれるような建物をつくり上げられるとよい。

もちろん漱石山房の硝子戸の中の書斎・客間は、再現するのだと思うが、中に入れるといいなと思う。

そのほかに朗読だとか、ちょっとした発表などができるような小さなホールや、世界中で漱石作品は翻訳されていると思うので、そういう漱石の資料など世界のものも見られるとよい。研究者はまずここに来るという場所になればいいとは想像する。今後の予算だとか、人員配置の問題などはあるが、職員1人だけのような館では無理だと思う。その辺との兼ね合いもあるがいろいろな展開を楽しみにしている。

- ・ 今日は、3つのタイプの美術館、博物館を見学して、漱石山房を復元するためにどのタイプがいいのかなということを楽しみながら考えている

今日の3つは、全部都心から離れている。だから結構な広さ、自然も確保されている。ところが、漱石山房の場合は、いかなれば都心にある。都心にある施設というのは、いったいどういう利点があるのかということにも目を向けたらいいのかなと思う。

また、私たちが考えるとき、漱石というとすぐ大人相手の記念館を連想する。もちろんそれは第一でいいと思うが、一方子どもたちにも目を向けて、子どもたちもあそこへ行って意味がある記念館にするという視点も大事。今の学校の教科書の中に、夏目漱石の作品が載っているかどうか分からないが、私の子どもものときには漱石の作品を読んだ記憶がある。子どもたちを大切に、呼びかけることができるとすれば、次代に継承できるというメリットもあるし、子どもたちのためにもすごくいいことだなと思う。そんな視点も生かしてもらいたい。

- ・ 漱石の小説の心象風景みたいなものをどれだけ共有できるかという観点から見た場合に、

いろいろ具体的な方策があると思う。

例えば、小説の中でさまざまな植物が出てきている。現在もバショウが元気に育っているが、植栽に関しても十分力を入れていくといいと思う。

もう一つは、特に漱石山房というと『硝子戸の中』ということになるが、今日見た施設では、ガラス戸の外から内を見ていた。けれども、『硝子戸の中』は、内から外を見るのか、外から内を見るのか。これは両方できたほうがいいと思う。つまり、漱石の書斎の中に入れるようなかたちにしたほうがいいのではないか。

それから、実際の建物にしる資料にしる、現物がほとんど手に入らないという現状がある。これもいろいろと考えてみても仕方がない。そうすると、内容で人を引き付けていかなければいけない。そのために、どういう企画を継続的にできるかと考えると、例えば、早稲田大学という貴重な知的財産が漱石山房のすぐ隣にあり、しかも早稲田大学は、地域に貢献することを大学の方針に掲げている。新宿区にとっても、早稲田大学にとっても、連携を強めていくことは非常にメリットがあると思う。ぜひ早稲田大学の協力を得たい。

- ・ 3館を見学し、それぞれを面白く感じた。自分が何に対して面白く感じたのかというのをずっと考えていたが、やはり作家がどういう場所で生活をしていて、どういう部屋で作品を作って、どういうものに囲まれていたのかというのを体験できて、そういう雰囲気味わえるというのが一番面白く感じたところ。その点で言うと、山王草堂記念館は密度が高くて、そういう雰囲気を味わうには一番強烈であった。作家が暮らした雰囲気を味わえるという点が、こういう記念館に行くひとつの面白みなのではないかと感じた。

- ・ 皆さんがおっしゃったことにならずきながら聞いていた。

漱石は「言葉」を残している。これは、今日見た3つの記念館、美術館とは違う面だと思う。漱石が残した言葉は、ほかの人たちとは比較ができないくらい多くの人たちに共有されるべきだし、未来の子どもたちにも伝えていかなければいけない。

そう考えたときに、単なる山房の復元ということだけではなくて、色々なかたちで漱石のメッセージを伝えていく工夫を、われわれは考えていかなければいけないということを痛切に感じた。これからの会議でそういうことを皆さんと一緒に考えていきたい。

## 9 次回の告知

- ・ 第5回は11月10日（土）午前にも榎町地域センター多目的ホールでの開催を予定。事業展開の検討に入る前に、その前提となる旧居の復元手法について、区の方針を説明し、ご意見・ご質問をいただく予定としている。
- ・ 当日午後、11月1日にオープンする文京区立森鷗外記念館等の見学会を予定しているので、ご参加いただきたい。